

ちばの地域福祉

「少しずつ変化していく中核地域生活支援センター事業」

千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会副会長
なかまネット 上谷 豪

中核地域生活支援センター（以下「中核」という）事業が始まって12年。世の中の変化とともに、中核の役割も少しずつ変化していくのだと思います。

平成29年1月24日午前10時から、中核の代表者会議が県庁南庁舎9階で開催されました。主な内容は、「中核地域生活支援センター事業の実施要綱の改正について」です。中核事業は、健康福祉千葉方式から創設されましたが、市町村の相談窓口の充実を踏まえ中核事業の将来展望を研究するため、平成19年にあり方研究会を設置しました。平成22年2月の報告書において、福祉に関する総合相談は、本来、住民に身近な市町村が対応することが望ましいこと、県は、広域的・高度専門的な相談への対応や市町村のバックアップを担うべきだという方向性が示されました。県は、平成22年から毎年度、市町村との意見交換を実施し、役割を明確にする話し合いを重ねてきました。その結果を踏まえ、平成29年度公募から中核事業の実施要綱の改正（案）をする予定であるとのことでした。

今年度、中核連絡協議会でも運営検討プロジェクトを立ち上げ、ケース記録の管理方法や終結の判断、長期化する相談、市町村から連携依頼されるケースについて等、各中核から意見を持ち、寄り摺り合わせを行っています。

各市町村の地域包括支援センター、生活困窮者自立相談、委託や計画相談事業所、基幹相談センターなど、地域の支援体制にも市町村それぞれの特性が反映され、違いが出てきている中でも、様々な変化に必死に付いていながら、『地域福祉のセーフティネットとして、広域的、専門性を持った寄り添い支援を行う窓口』である中核の役割を大切に、心を引き締めて活動していきたいと決意を新たにしています。

ちから ちばの福祉力・社会資源

千葉県自閉症協会のご紹介

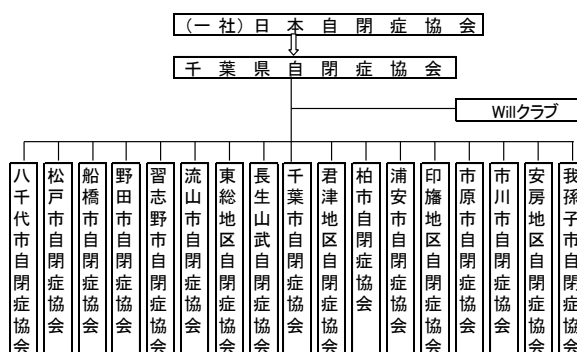
会長 大屋 滋

昭和 47 年千葉県内の自閉症児の親が集まり会を発足し、平成元年に社団法人日本自閉症協会千葉県支部、平成 18 年千葉県自閉症協会に改組して現在に至ります。千葉県内に生活する自閉症児者が一人ひとりの個性を尊重され、人としての尊厳を保障される地域社会を創り、本人とその家族の福祉の増進に寄与することを目的として活動しています。県内 17 の地区自閉症協会と Will クラブから構成されており、全体で約 1000 人の家族や支援者が入会しています。県協会は県行政や千葉県全域を対象とした活動を行っており、地区自閉症協会は各会員に直結する活動を行っています。

県協会の主な活動としては、1. 自閉症啓発デーイベント：世界自閉症啓発デーに合わせて、関係団体と協力し、啓発イベントを開催しています。 2. 親子遠足(親子の旅事業)：千葉県から補助金を受けて、親子で楽しめる日帰り遠足を実施しています。また、各地区協会に同事業の補助金を分配し、各地区における同様の催しを支援しています。 3. 講演会：年に 1, 2 回、学齢期の課題や就労について、虐待問題など、その時々テーマを選定し、講師の方をお招きして講演会を開催しています。 4. 機関誌の発行：年に 2 回程度、機関誌「みち」を発行しています。 5. 行政へのはたらきかけ：障害福祉計画策定の際のヒアリングやタウンミーティング等に参加したり、計画に盛り込んでいただきたい内容を要望書として提出するなど、行政への働きかけを行っています。 6. 各種会議、作業部会等への参加、講師派遣 7. 成壮年自閉症課題研究会：勉強会や施設見学会等、自閉症者の加齢化及び親の高齢化に伴う諸問題について取り組むため平成 19 年度に活動を開始しました。 8. 県内の自閉症支援機関との連携：千葉県発達障害者支援センター (CAS)、千葉市発達障害者支援センター、千葉県 TEACCH プログラム研究会の設立当時から関与し、現在に至るまで極めて密接に連携しています。

各地区会では、1. 会員同士の集い：定例会、茶話会、相談会 2. 本人活動：墨絵、版画、絵画、音楽、和太鼓、ドラムサークル、スポーツ、料理教室、レクリエーション活動などを行っています。 3. 地区行政や地区の関連団体との協働を行っています。

自閉症児者とその家族の支援は少しずつ進んでいるとはいえ、今も昔も悩みの本質は変わっていません。ご本人、ご家族、支援者のご参加を心よりお待ちしております。



【連絡先】千葉県自閉症協会

〒260-0856 千葉県千葉市中央区亥鼻 2-9-3 CAS 内 FAX : 043-227-8565

ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

おしゃべりばー「きゃべつ」

柏駅東口から徒歩 10 分程の場所にあるおしゃべりばー「きゃべつ」へお邪魔しました。責任者の吉田さんは認定 NPO 法人いもむしの理事長としても柏市内で活動をされています。

どんな場所ですか？

誰でも利用出来る喫茶です。昼食の提供（11：00～14：00）、アンテナショップ（11：00～18：00）、レンタルスペース（講座によっては有料）、ばーばの知恵袋（相談・支援）をしています。昼食は 1 食 500 円です。第三水曜日にはママティータイムをしており、子連れのお母さんと一緒に語らう場所になります。12 月は折紙や毛糸でクリスマスツリーを皆で作りました。



立ち上げた経緯は？

これまで知的障害の分野で活動をしてきましたが、障害者支援としての居場所（生活介護や放課後等児童デイサービス、地域活動支援センター等）はある程度整ってきたように思います。そんな中で健常者の居場所が少ない事を感じるようになりました。母子（父子）家庭でダブルワークをしている親やその子、身寄りのない高齢者等は人とつながる機会が少ないですね。



今後に向けて

子ども食堂をしたいと思っています。子どもも大人も来られる、食事だけでなく創作活動等も通して交流する場になればと思います。交流を通して心を豊かになって欲しいと思っています。

常に新しい取り組みに挑戦される吉田さん。お会いすると「私も頑張るぞ！」といつも元気をいただける、素敵な方です。

昼食はしょうが焼き定食をいただきました。味噌汁、小鉢、デザート、コーヒーが付いて 600 円。調理された長谷川さんの人柄がにじみ出るお袋の味を堪能できました。ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

おしゃべりばー「きゃべつ」

柏市柏 3-11-27 アーバンパルム柏 210

TEL&FAX：04-7170-1068

責任者 吉田 登美子



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

千葉県相談支援事業連絡協議会（CSK）主催

相談支援研修全県大会

日時 平成29年2月25日（土）13時～17時00分
（受付開始 12時30分）

会場 千葉市男女共同参画センターイベントホール
（千葉市中央区千葉寺町1208番地2千葉市ハーモニープラザ内）

対象 相談支援事業従事者・市町村関係者・相談支援事業に関心のある方
費用 2,000円（資料代）

13:00 会長挨拶

13:20 基調講演

『精神障がいのある方の地域移行・地域定着』

講師 岩上 洋一氏

（日本相談支援専門員協会 理事）

15:00 パネルディスカッション

『地域移行支援の実践～それぞれの現場から～』

コーディネーター 藏田 亜希子氏（千葉県相談支援事業連絡協議会 事務局長）

アドバイザー 岩上 洋一氏（日本相談支援専門員協会 理事）

パネリスト 岸 恵子氏（千葉県地域生活定着支援センター センター長）

酒井 範子氏（浦安市サーチャルサポートセンター 施設長）

汐田 千恵子氏（特定非営利活動法人母里子ネット 代表理事）

16:30 閉会

17:30 情報交換会 萬福（千葉市中央区末広4-23-10坂本ビル1F）
会費 5,000円

お問合せ先：地域生活相談支援センターもえ 担当：森川

〒299-0257 袖ヶ浦市神納1-19-7

TEL：0438-60-7578 FAX：0438-60-7522 MAIL：csk.jimukyoku@gmail.jp

主催 千葉県相談支援事業連絡協議会（CSK）

後援（依頼予定）千葉県、千葉市、日本相談支援専門員協会（NSK）、

千葉県社会福祉士会、千葉県精神保健福祉士協会

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：ひだまり（安房圏域）館山市山本1155

TEL 0470-28-5667 FAX 0470-28-5668

編集：長生ひなた（長生圏域）茂原市長尾2694

TEL 0475-22-7859 FAX 0475-22-7844

※内容についてのお問い合わせは、長生ひなた（担当：汐沢）までお願いします。